

るにしても、團體行進の場合は指揮者の號令に従つて、足並みを揃へる氣構へが必要であると思ふ、縦横の間隔を整へる氣持ち位は當然あるべき筈であると思ふが、半數位は案外呑氣に散歩でもする氣持で歩いてゐて、どうしても行進にならなかつたことを覺えてゐる。嘗つて幼稚園の先生は夫れでもよかつたのであつた、長い袖、長い袴で、靜々と保育に従事することが、母性的でよい先生として讀へられた時代もあつたのである。ところが其のお手本である母性的の母性が、既に隣組防空陣の一員としてあの輕快な服裝、見事な團體訓練を受けて號令一下勇敢にして、活潑な行動をとつてゐる時代となつてしまつたのである。従つて、幼稚園保姆も昔のまゝの氣持で保育に携り、自身に氣をつけ、竝、行進一つ正しく實行出來ないとすれば時代錯誤も甚しいと云はなければ

## 健康増進の爲の保育の實際

大阪第一師範學校女子部附屬幼稚園

清水桔梗

決戦下健康増進の保育は、保育中の王座とも申すべき事柄で、日々多少とも健康増進の保育でないものはいけません。しかも亦健康増進の保育程、平凡で長期間を要するものも少いでせう。

扱て、我が附屬幼稚園で採つて居ります保育も亦、平凡の域を脱しませんが、長期を狙つて實施致して居りますので、やがては相當の効果を期待することが出來ると信じて居ります。

ればならない。然し残念なことに、幼稚園の現状、その方面に對する保姆の教養不足のために進歩の遲々を認めない譯に行かないやうである。氣をつけた幾回繰返しても子供に徹底させられないものなどを見ると殊に其の感を深くする。それは單に聲の強弱大小から来る結果や、單なる技術ではなく、先生が體練されてゐないからであるやうだ、即ち號令者に氣をつけて身に著いてゐないためである。號令は小さくとも號令の精神が身に著いてゐて、先づ自身の態度にその號令の精神が嚴正に表現されてゐるならば容易に子供に徹底させることが出來子供を指揮することが出來ると思ふ。幼稚園の體練實施に當り、具體的な順序、方法、過程を研究する前に、先づ保姆諸君の體練の教育の必要を痛切に感じ、またそれが先決問題であることを述べて筆をおくものである。

先づ幼兒の健康生活を、家庭と幼稚園の兩方面から、盛り上げてゆかねばならないと存じ、毎月、朝日に幼兒相談會を開催して、家庭と緊密な具體的な連絡をとり、尙理論的連絡として、毎月一回大詔奉戴日に「あゆみ」といふ家庭との連絡機關紙を發行、姿勢、睡眠、食事、間食、疾病其他家庭で配慮していただかねばならない、健康増進の事柄について指導をし、より效を擧げ様と努

力致して居ります。

次に幼稚園では大要左の様な事項を保育項目の中に採り入れて、日々間断なく配慮致して居ります。

### 第一、姿勢

姿勢は健康増進の上からだけでなく、精神教育の上からも最も基本的なものと考へ、かなりこの保育を重視致して居ります。

起立の姿勢 毎月曜日の朝禮で、必ず主事が起立の姿勢を一人一人について見てゆきます。最初のうちは起立の姿勢が充分のみこめなかつた様ですが、近頃では最早要領がわかつた様ですし、姿勢といふ言葉さへ理解出来る様でございます。

この時の構へ、態度、姿勢を基にして一週間保育を続け、次の月曜日に再び姿勢を正してまゐります。

正座の姿勢 毎月曜日の午後、疊敷保育室に正座させて談話を聞かせ、座の姿勢を整へることに致して居ります。

家庭での生活様式に洋風が加はりまして以來、座の姿勢、特に子供の座の姿勢が崩れて來てゐる様でございます。

正しい姿勢は健康増進の根本になると思惟致しますので、すべての場合の姿勢に留意致して居ります。

椅子座の姿勢 毎日毎時、着座毎に、椅子座の姿勢に留意し、兩手を後ろで組ませて居ります。この要領が中々むづかしく、最初のうちは、却つて脊中が曲りはせぬかと案じましたが、周圍が馴れば、新入園児もわけなく出来る様になりました。

かういふ姿勢を採らせる様になりましてから、見る見る胸部が廣くなつた様な氣が致します。

### 第二、歩行

都會人は乗りものに恵まれすぎて歩くことが不得手でございませう。殊に大阪人は歩き下手でございませう。

決戦下、歩くことは重要な保育の一つと考へ、歩行鍛練を實施致して居ります。

毎木曜日な歩行鍛練日と定め、野道、土堤の上を、山道を歩かせることに致して居ります。

日常五時間保育の時、最年長兒に歩數計を腰にぶら下げさせて、一日凡そ何程歩くかと計つて見ましたところ、元氣旺盛な男兒で約十八軒から三十軒、女兒のおとなしい子供でさへ八軒近くは僅に歩いて居ります。歩行鍛練になりませうと、歩きたくなくとも歩かせられませうし、歩きたくても休憩させられることがございませうから、自由生活で二十軒歩いて居りますからとてそれだけ歩行させ様と考へるわけにはまゐりませう。が、現在當園で選んで居ります行程は、歩行鍛練として決して無理でないと思ひ致します。

なちみに年長兒の主な行程を掲げて見ませう。

野道又は平地

法隆寺より龍田川へ——七・〇軒

住吉神社より幼稚園へ——七・五軒

奈良公園一周 ——七・八軒

土堤道又は野道

大和川より幼稚園へ——六・四軒

河内御陵めぐり

——五・七軒

## 山道

國分方面の山登り——

五・二杆

堅上方面の山登り——

六・二杆

## 第三、床磨き

第一線の將兵が陸に海に赫々たる戦果をあげて居りますのは、大御稜威の然らしめるところでございますが、日本人が強靱な腰を持つてゐるといふことも、一つの大きい原因をなしてゐると存じます。強靱な腰、それは匍匐生活を永く續けたからでございます。禪の修業でも精神修養に併せて身體、殊に腰の鍛錬に拭掃除を採り入れられてゐると伺ひます、かうした意味から、洋式生活の増しつゝ、あります都會人に、出来る丈匍匐生活を永く續けさせる爲に、毎水曜土曜の朝、最年長兒に、七十五坪の遊戯場の床拭きを實施させて居ります。一見無理な様に思へますが、子供の一日の生活を通覽致します時、砂遊びに、飯事遊びに、積木遊びに、匍匐状態の場合が極めて多うございます。そこでこの生活を規律的に、體育的に取扱つたのでございます。

尚、拭き上げた床を、年長兒年中兒が向ひ合せの二列横隊に正

## 子供達を丈夫に育てたい爲に

石川師範女子部附屬幼稚園

作 田 せ つ

座し、ワックス雑巾で交互に床みがきを致します。一方が腹の運動をしてゐる時、他方は脊の運動をする様になるので誠に面白く愉快なうちに終始致します。

## 第四、土運び

腕の力を練るのに、低鐵棒、登り棒などでの運動もよろしいが、それにも増して、増産と併せての土運び保育は、確かに一石二鳥でございます。

毎週一回、小さいバケツに、一・三疋乃至一・五疋の土を入れ、約六米の距離をあげて順送します。空バケツは年中兒が同じく順送して返します。

機械的な共同作業の愉快さを相當に味はひ得ますので、かなりに注意が續きます。

以上の外、動物飼育、農場作業と、かなり體練的な行事を保育項目として、積極的に健康増進を計つて居りますと共に、他方

農場で出來た野菜を入れて、毎日味噌汁の給食をし、肝油、エルビオゲンの服用をさせて、消極的保健に留意するなど、都會人の面目にかけて大いに努力致して居ります。

一、こんな目標で 1、自然が育てるのだ

○外を喜ぶ子に 陽を浴びさせる 空氣を食べさせる